

1. 経 済 動 向

記事提供：一般財団法人 建設物価調査会 北陸支部

新潟県内の景況について

新潟県鉱工業指数をみると、令和8年3月の生産指数は前月比0.7%上昇の95.5で、3ヵ月ぶりの上昇となった。業種別にみると、輸送機械工業、化学工業、電子部品・デバイス工業等7業種が上昇し、汎用・生産用・業務用機械工業、プラスチック製品工業、金属製品工業等8業種が低下した。出荷指数は99.4で、こちらも前月比2.4%の上昇となった。これは、化学工業、鉄鋼業、輸送機械工業等8業種が上昇し、汎用・生産用・業務用機械工業、電気・情報通信機械工業、食料品工業等6業種が低下したことによる。在庫指数は86.9でこちらは前月比4.6%の低下となった。これは、電気・情報通信機械工業、化学工業、汎用・生産用・業務用機械工業等11業種が低下し、非鉄金属工業、窯業・土石製品工業、その他工業の3業種が上昇したことによる。

令和8年3月の有効求人倍率は1.37倍(全国平均1.18倍)で前月比変わらず。新規求人倍率は2.29倍で、こちらは0.11ポイントの上昇となった。主要産業別にみると、サービス業、建設業、製造業等が上昇し、卸売業・小売業、宿泊業、飲食サービス業、運輸業・郵便業等が低下した。雇用情勢は改善の動きにやや足踏み感があり、引き続き、求人・求職の動きに留意しつつ、物価の高騰等が雇用に与える影響にも十分注意する必要がある。

令和8年3月の新潟市消費者物価指数は、総合で111.1となり前月比0.4%上昇した。前月からの動きをみると「食料」が0.9%低下したものの、「交通・通信」が2.3%上昇したことによる。それでも前年同期比では0.9%の上昇となった。

富山県内の景況について

富山県鉱工業指数をみると、令和8年3月の生産指数は100.7で前月比4.4%の上昇となり、2ヵ月ぶりに上昇した。これは13業種中、汎用・生産用・業務用機械工業、金属製品工業、窯業・土石製品工業等の6業種が上昇したことによる。なお、低下した業種はプラスチック製品工業、化学工業、電気機械工業の7業種となった。在庫指数は105.0と前月比0.1%の上昇となり、3ヵ月ぶりの上昇となった。これは13業種中、化学工業、パルプ・紙・紙加工品工業、輸送機械工業などの5業種で上昇したことによる。なお、低下した業種は汎用・生産用・業務用機械工業、プラスチック製品工業、電気機械工業などの8業種となった。

令和8年3月の有効求人倍率は1.46倍となり、前月比0.01ポイントの低下となった。新規求人数は7,681人と前年同月比1.4%減となり、3か月連続の低下となった。主要産業別にみると、製造業、宿泊業等が増加し、サービス業が低下した。雇用情勢は、求人が求職を上回って推移しており、持ち直しの動きがみられるが、物価上昇・中東情勢等が雇用に与える影響に引き続き注意する必要がある。

令和8年3月の富山市消費者物価指数は、総合で113.4となり前月比0.8%の上昇となった。これは、前月比で「住居」等は低下したものの、「交通・通信」等が上昇したことによる。また前年同月比では、「光熱・水道」が下落したものの、「食料」等が上昇したことにより1.5%の上昇となった。

石川県内の景況について

石川県鉱工業指数をみると、令和8年3月の生産指数は110.3と前月比3.8%の低下と、4ヵ月ぶりの低下となった。これは、汎用機械工業、情報通信・電子部品・デバイス工業等が低下したことによる。出荷指数は108.5と前月比1.2%の低下で、こちらは3ヵ月ぶりの低下となった。また在庫指数は71.8で前月比14.4%低下し、こちらも3ヵ月ぶりの低下となった。

令和8年3月の有効求人倍率は1.43倍で、前月比0.06ポイントの低下となった。また新規求人倍率は2.38倍となり、こちらも前月比0.18ポイントの低下となった。主要産業別にみると、上昇したのは情報通信業のみで、建設業、製造業、運輸業・郵便業等はすべて低下した。雇用情勢は、求人が求職を上回って推移しているものの、求人の動きの一部に注意を要する状態にある。

令和8年3月の金沢市消費者物価指数は、総合で112.5となり前月比0.6%の上昇となった。これは、「教育娯楽」、「家具・家事用品」等が上昇したことによる。また前年同月比では、「食料」、「住居」、「教育娯楽」等が上昇し、0.8%の上昇となった。

※ 上記は、令和8年3月時点での経済活動である。

主要経済動向指標（北陸地方３県の比較）

項目・ 県別 年度区分			鉱工業生産動向指数(季節調整済) [令和2年=100] ※石川は令和6年8月分より令和2年基準								
			生 産			出 荷			在 庫		
			新 潟	富 山	石 川	新 潟	富 山	石 川	新 潟	富 山	石 川
令和七年度	Ⅰ	4月	97.6	99.9	99.3	97.9	-	96.4	92.0	103.7	85.5
		5月	99.2	99.2	115.1	99.5	-	112.1	90.3	105.7	95.0
		6月	98.6	97.3	102.1	99.1	-	100.6	87.9	103.9	101.5
	Ⅱ	7月	96.6	101.9	103.5	96.1	-	100.8	90.2	103.1	86.4
		8月	93.6	96.1	101.8	90.2	-	102.1	92.3	103.5	75.2
		9月	93.8	100.8	115.1	94.7	-	112.5	89.1	104.3	73.9
	Ⅲ	10月	93.6	101.0	114.2	94.1	-	109.7	89.9	105.1	74.3
		11月	93.4	93.5	104.1	92.3	-	102.8	91.3	106.2	80.6
		12月	98.2	97.3	106.9	94.8	-	100.4	93.1	108.0	78.0
	Ⅳ	1月	98.0	98.6	112.8	95.8	-	106.0	94.4	107.7	81.3
		2月	94.8	96.5	114.7	97.1	-	109.8	91.1	104.9	83.9
		3月	95.5	100.7	110.3	99.4	-	108.5	86.9	105.0	71.8
資料出所			県統計課								

項目・ 県別 年度区分			有効求人倍率			消費者物価指数		
			(季節調整済)			※[2020年＝100]		
			新 潟	富 山	石 川	新潟（市）	富山（市）	金沢（市）
令和七年度	Ⅰ	4月	1.48	1.44	1.65	110.8	112.1	112.1
		5月	1.43	1.47	1.64	110.9	112.5	112.0
		6月	1.41	1.48	1.61	110.5	112.4	112.0
	Ⅱ	7月	1.41	1.49	1.59	110.9	112.5	112.0
		8月	1.40	1.48	1.58	110.8	112.7	112.2
		9月	1.38	1.49	1.57	110.9	112.2	112.2
	Ⅲ	10月	1.37	1.47	1.54	111.5	112.8	112.6
		11月	1.37	1.46	1.50	111.5	113.1	113.0
		12月	1.38	1.48	1.45	111.4	113.1	113.2
	Ⅳ	1月	1.37	1.47	1.51	111.4	113.6	112.8
		2月	1.37	1.47	1.49	110.6	112.5	111.9
		3月	1.37	1.46	1.43	111.1	113.4	112.5
資料出所			労働局職業安定課			県統計課		

(注) ・ P は速報値を示し、 r は修正値を示す。
 ・ 各指標は速報値を含み年度修正が行われるため、先の公表分と異なる場合がある。